

ごあいさつ

埼玉県保健医療部 部長 奥野 立

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、県の保健医療部長の奥野でございます。第4回目の埼玉輸血フォーラムが、このように多くの方の御参加のもとに、盛大に開催されますことを、まずもって心からお祝いを申し上げたいと思います。

また、本日御参加の皆さま方には、日ごろから県の保健医療行政の推進に格別の御理解と御協力をいただいておりますことに対しまして、あらためてお礼を申し上げたいと思います。

さて、医療の高度化、あるいは高齢化が進む中で、血液需要は年々増加をいたしております。このため、県では日本赤十字社とともに、若者向けのキャンペーンであるとか、400ミリ献血の推進、あるいは複数回献血の推進などのキャンペーンを繰り広げまして、献血者の確保に努めているところでございます。

おかげをもちまして、昨年度は24万2千人の方に県内で献血をいただきまして、医療機関の皆さまに滞りなく血液製剤を供給することができたと思っております。

一方で、今後の血液需要が増える中で、安定的に血液製剤を確保していきますためには、医療機関の皆さまに、適正な血液製剤の使用に気を配っていただくということも大変重要かと考えております。

今日、御出席の皆さま方はそれぞれの医療機関において、輸血療法委員会を設けられて、血液製剤の適正使用に御尽力をいただいております。

また、本日このフォーラムを開催されました、埼玉県合同輸血療法委員会では、代表世話人の前

田先生を中心に、適正な輸血療法の普及のために、輸血医療に関わる情報交換ですとか調査研究活動に、積極的に取り組んでいただいております。

本日も特別講演や意見交換を通じまして、医療機関における輸血の安全性を高める取り組みが、いっそう推進されることを期待を致しております。

さて、埼玉県では現在65歳以上のお年寄りが、大体5人に一人という状況ですが、これから20年先には3人に一人と急激に高齢化が進展してまいります。これに合わせて、県ではいま現在、来年度から5カ年間の第6次地域保健医療計画を策定しているところでございます。この中では、健康長寿の取組みということで、健康で生き生きとお年を過ごしていただけるような取り組みを推進するとか、地域の中核の病院と掛かり付け医との連携あるいは、医療と介護サービスの連携強化といった、在宅医療の取り組みに目を向けていかなければならないと考えているところでございます。

また、第6次の医療計画の中には、一つの項目として、血液製剤の適正使用の推進ということを定めさせていただく予定でございます。皆さま方にも引き続き、御支援、御協力をお願いしたいと考えております。

結びに、本日、御参会の皆さまにとりまして、このフォーラムが実り多いものとなりますように。また、埼玉県合同輸血療法委員会のますますの発展と、皆さま方の御健勝を祈念申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。

本日はおめでとうございます。